

下北山村

下北山村が目指す子育て環境

元気・本気でキラキラ輝く子どもづくり！山間へき地にあっても、「下北山村で子育てして良かった！」そんな、子育て支援を目指しています。

1 基本データ <県記載>

- ・順位は県内市町村の降順
- ・カッコ書きは県全体の数値

①人口増減率（H11年4月～H30年12月・約20年間）					
増減率	順位	うち自然増減		うち社会増減	
		増減率	順位	増減率	順位
▲36.7% (▲6.2%)	29位	▲21.2% (▲2.1%)	34位	▲15.5% (▲4.1%)	27位
②合計特殊出生率			③有配偶出生率		
H20～24年（年率）	順位	対H15～19年（年率）増減	(15～49歳女性有配偶者1,000人あたりの出生数)		
			H27年	順位	
1.31 (1.29)	14位	+0.02 (+0.06)	50.9 (74.4)	35位	
④出生数（人）	⑤年少人口割合（15歳未満）				
H30年	H30年10月	順位	対25年10月増減		
5 (8,947)	6.4% (12.0%)	32位	▲1.4㊦イト (▲0.7㊦イト)		
⑥子育て世代割合（25～44歳）					
H30年10月	順位	対25年10月増減			
11.8% (20.7%)	35位	▲2.2㊦イト (▲3.8㊦イト)			

2 子育て家庭の現状と支援に関する課題

- ① 人口減少の問題。「単身世帯」の割合は44.2%と高いが、奈良県や国と比べて「核家族世帯（夫婦と子ども）」の割合は14.7%と低い。本村は超高齢社会（高齢化率46.8% 平成31年4月データ）であり、15歳未満の割合は年々減少傾向であり、少子高齢化の問題が急速に進むこと。
- ② 医療の問題。山間へき地であり村内には診療所が1つ。病床なく、入院は出来ない。搬送には最短で三重県方面で約1時間かかること。
- ③ 進学の問題。村には高校はなく、進学と同時に親元を離れて生活する必要がある。

3 子育て家庭への支援に関する基本的な考え方（目指していること）

- ① 子どもを安心して、産み育てることができる村を目指す。
- ② 心身ともに健やかな子どもの成長を支える村を目指す。
- ③ すべての子どもが尊重され、安全で住み良い村を目指す。

4 子育て家庭への支援に関する特徴的な取組

- ① 保育料無料の実施（平成31年4月実施）
- ② 赤ちゃん誕生祝い金（10万円）を各家庭や役場にて、村長及び副村長が授与。
- ③ 乳幼児おむつ購入費助成（年間48,000円を2歳になるまで）で、子育てにかかるお金をサポート。

5 多様な主体による子育て支援の取組

- ① 一般不妊治療（1回10万円）特定不妊治療の助成（5万円助成×年間3回）だけでなく、妊娠判定受診費用の助成（7,000円×年間2回）の実施で、子どもを授かる前からサポートを開始している。
- ② チャイルドシート購入助成（上限10,000円、購入費の半額助成）の実施。
- ③ 年間24回開催の育児サークルでは保健師が主体となって、各種専門家を招き楽しい子育てだけでなく、ママさんの子育て知識や技術の向上を、徹底サポートしている。

詳しくは 下北山村ホームページ
<http://www.vill.shimokitayama.nara.jp/kurashi/>